

注意

ハチ刺され

スズメバチは
7～10月が
最盛期



毎年、6月～9月は、ハチ刺され事故が多く発生しています。

県内の蜂刺され事故発生件数

令和6年度 19件（草刈・除草作業 11件、剪定等作業 6件、その他作業 2件）

令和5年度 21件（草刈・除草作業 12件、剪定等作業 5件、その他作業 4件）

**ハチ刺され事故を
防ぐには、先ず
ハチに刺されない
ことが基本**

- ✓ 作業前にハチが飛んでいないか、必ず作業現場の状況の確認を行いましょう。
- ✓ 常に「携帯用ハチ撃退用スプレー」をそばに置いて作業しましょう。
- ✓ 巣に近寄らない、巣に振動などの刺激を与えない、巣の近くでは作業しないことを常に心がけましょう。

ハチの攻撃の特徴

いきなり、無差別に人に攻撃を仕掛けるわけではありません。



速やかに
危険区域から
離れましょう

- ① 巣への接近に対する威嚇⇒ハチが高い羽音を発して飛び回る。
- ② ハチの威嚇を無視し、これに気がつかない場合、また巣に振動を与えた場合
⇒巣内から多くのハチが飛びだし大騒ぎになる。相手にまっすぐ飛びかかり毒針で刺す。
- ③ 巣に直接刺激したり、巣を破損した場合
⇒巣内から多くのハチが一斉に巣の外へ飛び出し、いきなり飛びかかりすぐ刺す。

一般社団法人 潟上市シルバー人材センター

〒018-1502 潟上市飯田川下虻川字ハツロ 70 TEL 018-874-7165

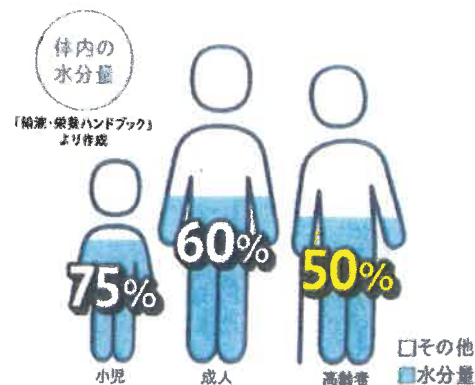
高齢者のための熱中症対策

熱中症の予防には、水分補給と暑さを避けることが大切です

⚠ 高齢者は特に注意が必要です

- 1 体内の水分が不足しがちです**
高齢者は若年者よりも体内の水分量が少なく上、体の老廃物を排出する際にたくさんの尿を必要とします。
- 2 暑さに対する感覚機能が低下しています**
加齢により、暑さやのどの渇きに対する感覚が鈍くなります。
- 3 暑さに対する体の調節機能が低下します**
高齢者は体に熱がたまりやすく、暑い時には若年者よりも循環器系への負担が大きくなります。

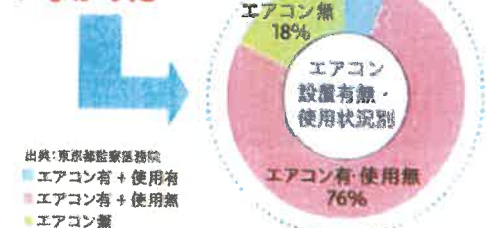
※心臓や腎臓の悪い方や持病をお持ちの方は、かかりつけの医師にご相談下さい。



● 東京都23区における熱中症死亡者の状況(令和3年夏) ※計39人(高齢者)のうち

約8割は65歳以上の高齢者

屋内での死亡者のうち 約9割は
エアコンを使用して
いなかった



予防法ができているかをチェックしましょう

☐ エアコン・扇風機を上手に使用している



☐ 部屋の温度を測っている



☐ 部屋の風通しを良くしている



☐ こまめに水分・塩分を補給している



☐ シャワーやタオルで体を冷やす



☐ 暑い時は無理をしない



☐ 涼しい服装をしている
外出時には日傘、帽子



☐ 涼しい場所・施設を利用する



☐ 緊急時・困った時の連絡先を確認している

のどが渴いていなくても こまめに水分・塩分を補給しましょう

1日あたり
1.2L(ツル)を
目安に



コップ約6杯

- 1時間ごとにコップ1杯
- 入浴前後や起床後もまず水分・塩分補給を



※水分や塩分の摂取量はかかりつけ医の指示に従いましょう。



熱中症予防情報サイト

環境省 熱中症予防情報サイトからの情報をチェック! ▶▶ <https://www.wbgt.env.go.jp/>
環境省では、暑さ指数(WBGT)の情報提供を行っております。令和3年度より全国展開している熱中症警戒アラートおよび、暑さ指数のメール配信等をご活用ください。【熱中症警戒アラート】は環境省のLINE公式アカウントで確認することができます▶



熱中症警戒アラート